＜10月＞「里芋の葉っぱってすごい！ ピタゴラスイッチみたい！」

○ねらい　友達と試行錯誤したり、思いを伝え合ったりしながら、自分たちで目的に向かって遊びを進めていく楽しさを味わう。

○内　容　秋の草花や木の実など自然への興味が高まり、遊びに取り入れ工夫する。

環境構成
保育者の援助

①今までの経験をもとに、シホが試したり予測したりしながら、友達と葉の不思議さや面白さを共有できるように見守る。

②驚きや発見を伝える喜びを感じることができるように、保育者も一緒に驚いたり疑問を感じたりして気持ちに共感する。

③友達と一緒に考えながら遊びを展開し、継続できるように、十分な時間を確保する。

雨の日、シホは葉がついたままの里芋を持って急いだ様子で登園してきた。ハルトに①「この葉っぱすごいねん！めっちゃ不思議やねん！」と自慢気に言う。シホはテラスの雨樋の繋ぎ目から流れ落ちている雨水に気付き、②「あの水が使える！」と言いながら雨水の下に走っていく。シホが①葉っぱを雨水に当てながら「見て！ほら、すごいやろ？」ハルト「何これ！すごいー！水がボールになった！」と大きな声で言う。その声を聞いてマコとニコが駆け寄り、「わぁ！宝石みたい！」「きれい！」と口々に言い、雨水が玉になって葉っぱの上をコロコロ転がる様子を皆でじっと見ている。シホが保育者のもとに駆け寄り、「この葉っぱはツルツルで硬いからや！」と言う。②保育者も葉っぱを触りながら「わぁ！ほんとだね。いいことを発見したね！」と言う。その後も、シホ、ハルト、マコ、ニコは葉っぱを雨水に当てる。シホとハルトが③葉っぱを上下にずらすと雨水の玉が2枚の葉っぱをつたって下に落ちた。シホ「雨のボールが階段降りよるみたい」ハルト「マコちゃんの葉っぱも僕の下に置いてみて」ニコ「じゃあ私も下に重ねる！」と4枚の葉っぱを階段のようにして持つ。④葉っぱの角度を変えながら“雨ボールの階段降り”に挑戦している。その後、保育室で遊んでいた③他児も遊びに加わり、交代しながら遊ぶ。シホ「ピタゴラスイッチみたいやな」と笑顔で言う。ニコ「ほんまや！おもしろい！」と笑顔で話し、遊びが続いた。

内面の読み取り

①葉に当たった雨水が玉になって落ちたことを早く友達や保育者に伝えたいと思った。そして、葉の不思議さや雨粒の面白さを友達と共有したい気持ちにつながった。

②雨の日にはテラスの雨樋から流れる水で遊んでいた経験が、この日の姿につながった。自然の事象を遊びに取り入れ、気付きや発見を自分から伝える姿に向かった。

③一ヵ所から流れる雨水に葉を同時に当てたことで、雨粒が散らばって落ちたり、葉をつたって落ちたりする面白さを感じた。

④水の流れる強さや流れる方向を予測し、葉の角度や高低差を考えたり、重ね方を工夫したりして遊ぶ楽しさを感じた。

＜ 考察 ＞

この日、シホは近所の人から葉がついたままの里芋をもらい、葉の上に落ちた雨水が玉になって滑り落ちたことに大きな驚きと発見を感じたのだろう。急いで登園し、驚きながら必死に話すシホの姿からは、心が大きく動いたことが伝わってきた。葉の遊びを通して里芋の葉の不思議さや面白さを感じるとともに、友達とその感動を共有する嬉しさや満足感にもつながっていることを感じた。

＜ 幼児の学び ＞

・里芋の葉と水の性質を知り、雨水が玉になる驚きや面白さを友達と共有したいという思い
・雨水の玉の動きに合わせて葉の持ち方や角度を考える空間認知

＜ 小学校の先生の気付き ＞

小学校の理科では、今までの生活経験を基に予想を立てて、観察・実験をしますが、就学前の子ども達が水の性質などへの気付きを、自分たちで発見していることに驚きました。

遊びの中から素直に感じた気付きが、友だち同士で共有されて広がっていますね。水や植物の性質を観察する力がするどいですね。